

洞窟におけるマクロ撮影について

稲垣 政志 (INAGAKI, Masashi)※

洞窟に生息する生物は一部のものを除いて皆小さく、個体数も少ない。これら貴重な生物を観察し、その生態を画像で記録することは学術的にも大切であるし、なによりその不思議な生態は美しい。本稿では洞窟棲生物のマクロ撮影に絞って、その要点を解説したい。

洞窟棲生物生態写真の特殊性は、通常の撮影と比較すると①湿度、②泥による汚れ、③暗闇でのフォーカス合わせに使う補助光、④フラッシュ使用の工夫、⑤狭い場所でのカメラワークに要約される。これらをすべてクリアできる装備は無いので、自分なりに工夫するしかない。

撮影機材の一例

本稿においてはデジタルカメラの使用を前提として話しを進める。現在私の使用しているメインの機材を上げる。Canon EOS40D、OLYMPUS E3、RICOH GX200、レンズは Canon MACRO EF 100mm、MACRO MP-E 65mm、ZUIKO DIGITAL 12-60mm、フラッシュは MACRO TWIN LITE MT-24EX、580EX、NIKON SB-30 である。

OLYMPUS E3 以外は防塵防滴機能が無いので使用にあたっては少し工夫が必要だが、この点については後で述べる。



メインのカメラ機材

カメラの設定

一番良く使う Canon 40D と MACRO EF100 の組み合わせで話を進める。基本的な設定は以下のとおり。

画質 : JPEG ラージ / ファイン
ISO : 100
ホワイトバランス : オート
フォーカス : マニュアル
絞り優先オート : F16
フラッシュ同調速度 : 1/250 秒
ツインフラッシュ : E-TTL オート

実際の撮影手順

まず、生息環境を含めた写真を OLYMPUS E3 で

撮影する。次に目的の生物に近づいて、できるだけ生物を驚かさないように色々な角度から撮影する。三脚は基本的に使用しない。Canon 40D と MACRO EF100mm を使用する。

この時に助手がいれば横から照明を当ててもらおう。助手の存在はとても重要で、助手がいればマクロ撮影時に生物のいる場所のだいたいの見当も指示してくれるので撮影がたいへんやり易くなる。

フォーカスはマニュアルが使いやすい。慣れてくれば拡大率と焦点距離が一瞬でだいたい分かるので、オートフォーカスを使用するよりチャンスをつかみやすい。

助手がいらない場合は、全体を広く照明する大型の